

高速増殖原型炉もんじゅ 性能試験(炉心確認試験)  
 実施状況

13:00現在

**概要**  
 制御棒価値確認、ナトリウム純度確認等を安全に実施している。

<b>プラント状態</b>	異常なし。 1次主冷却系流量 約49%(主モータ運転)      1次主冷却系温度 約200℃ 2次主冷却系流量 約7%(ポニーモータ運転)      2次主冷却系温度 約200℃	備考
---------------	--	----

<b>性能試験実施状況</b>	<p><b>【昨日(5/23)の実績】</b>                  10:05 ナトリウム純度確認、ナトリウム放射化量評価開始                  13:12 制御棒価値確認開始                  13:31 原子炉モードスイッチ「停止」→「起動」                  17:57 制御棒引抜開始                  0:29 臨界到達</p> <p><b>【本日の実施状況】</b>                  制御棒価値確認、ナトリウム純度確認、ナトリウム放射化量評価を継続実施中                  9:05 圧力損失変化評価開始                  9:53 圧力損失変化評価終了                  10:05 アルゴンガス純度確認開始</p> <p><b>【明日(5/25)の予定】</b>                  制御棒価値確認を継続実施する。                  ナトリウム純度確認、ナトリウム放射化量評価を継続実施する。                  アルゴンガス純度確認を実施する。</p>	備考
-----------------	---	----

<b>その他</b>	保守票対応: ・運転床上雰囲気止弁用のグラフィックパネル用のリミットスイッチの位置不良について (別添資料) ・「新燃料移送機連動運転渋滞」の警報の調査について(別添資料) ・ナトリウム・水反応生成物収納設備系統内「酸素濃度高」警報について(原因調査状況) (別添資料)	備考
------------	--	----

		20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)	29日(土)	
<b>性能試験工程</b>	プラント操作を伴う試験			①制御棒価値確認								
			①空間線量当量率確認									
	プラント操作を伴わない試験	②ナトリウム純度確認										
		③ナトリウム放射化量評価										
		④アルゴンガス純度確認										
		①圧力損失変化評価										
				△	↑				△			
				制御棒引抜					原子炉停止			

※ 下線部について、別添資料名と相違がありましたので訂正しております

このお知らせは、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ  
運転床上雰囲気止弁用のグラフィックパネル用のリミットスイッチの位置不良  
について

1. 発生日時： 平成22年 5月23日（日） 16時31分
2. 発生場所： 高速増殖炉研究開発センター  
高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉建物（管理区域）
3. 状 況：

5月23日16時07分に格納容器の床上の空気雰囲気の減圧のため、運転床上雰囲気止弁を「全開」とし、16時31分に「全閉」としたが、中央制御室の制御盤のグラフィックパネルの表示が「開」状態（ランプ点灯）のままであり、弁の開閉を実施したが、「閉」状態（ランプ消灯）表示となりませんでした。

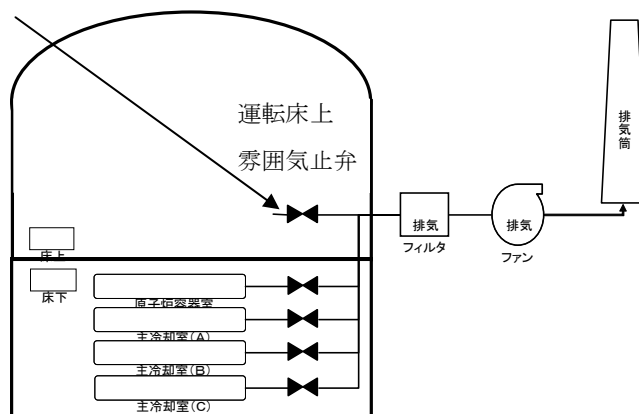
現場確認を行ったところ、制御盤では同弁の「閉」表示ランプが点灯していること及び弁が「閉」状態であることを確認しています。

対応としては、同弁のグラフィックパネル用のリミットスイッチの位置調整を行う予定です。

環境及び炉心確認試験への影響はありません。

当該弁

以 上



※下線部を訂正しております

このお知らせは、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ  
「新燃料移送機連動運転渋滞」の警報の調査について

1. 発生日時： 平成22年 5月23日（日）18時30分 （保修票発行）

2. 発生場所： 高速増殖炉研究開発センター  
高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉補助建物（管理区域）

3. 状 況：

高速増殖原型炉もんじゅは、5月19日より新燃料集合体を新燃料貯蔵ラックから炉外燃料貯蔵槽へ移送<sup>\*1</sup>していますが、11体目の燃料集合体の移送途中の5月22日19時34分、燃料取扱操作室で「新燃料移送機連動運転渋滞<sup>\*2</sup>」の警報が発報しました。そのため、11体目の移送は中止し、地下台車から新燃料貯蔵ラックに23時02分に一旦戻しました。

昨日、模擬燃料集合体にて、再度、確認操作を行いました。事象が再発することから、保修票を発行しました。

今回の「新燃料移送機連動運転渋滞」は、燃料集合体の角度を調整する際に、一連の方位調整のためのシーケンス制御において一時的に発生したものです。

このため、方位調整のための測定時間を3秒間に設定したことによって方位調整が確実にできることを確認し、本日15時33分、新燃料貯蔵ラックからの11体目の移送作業を再開しました。

環境及び炉心確認試験への影響はありません。

- \*1：新燃料集合体の移送において、炉心に装荷する方向を一定にそろえるため、新燃料貯蔵ラックから新燃料移送機で取出した後、地下台車へ吊り降ろすタイミングで、燃料集合体の方位調整を行います。
- \*2：自動制御による運転中、機器の動作完了をタイマーで監視しているが、一定時間内に機器の動作完了にならない場合に、自動制御が停止することをいう。

以 上

このお知らせは、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験期間中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ

ナトリウム・水反応生成物収納設備系統内「酸素濃度高」警報について  
(原因調査状況)

平成22年5月19日10時55分頃発生した「ナトリウム・水反応生成物収納設備\*1異常」の警報につきましては、原因調査を目的として、ノイズの侵入箇所を特定するために、可能性のある箇所に記録計を接続し、調査を行っていましたが、5月23日15時00分および24日15時06分に再度、警報が発報しました。この時も、酸素濃度の指示値は0.2%で変動はなく安定しており、警報の発報は一過性で、その後の警報の発報はありませんでした。警報設定値は2.0%です。

酸素濃度の測定は、A、B、C3基あるナトリウム・水反応生成物収納設備を順に切り替えて実施していますが、記録計によるとC号機からA号機に切り替わる時に、スパイク状に指示値が上昇していることが分かりました。

なお、本設備は、炉心確認試験では使用しない設備です。  
環境及び炉心確認試験への影響はありません。

\*1：本設備は、ナトリウム・水反応による生成物を収納する設備です。酸素濃度計は、この系統内の酸素濃度を監視しています。

以上

